



# おしえて！ 岩田先生！！



岩田 彩子さん

《岩田先生プロフィール》

臨床心理士、公認心理師。スクールカウンセラー歴19年。小・中・高に出向しています。ただ今子育て真っ最中。

## しつもん

こどもに将来の選択肢を広げるために、スポーツ・プログラミングなど色々な習い事を勧めているのですが、本人はあまり興味を示しません。

こどものために、親が必要だと思う習い事をさせるのは親のエゴでしょうか？

## 先生からのお返事

今回のご質問の「エゴ」とは親の考えを子どもに押し付けることを指しているのだと思いますが、子どもは親の関わりなしには育ちません。その関わりの中で親の言動を子は「エゴ」と感じたり「愛情」と感じたりします。しかし、その境目がはっきりしないところが厄介です。

例えば、「今から、〇〇をやっておくと、大きくなってから困らないよ」とか「私がやっていますごくよかったですから、あなたもやってみたら」というセリフが皆さんの頭に浮かびませんか。親は人生の先輩として、子どもに伝えたいことはたくさんあります。また、子どもも小さいうちは親の考えに疑問を持たず、すんなりと受け入れることはよくあります。親の提案に乗り気でなかったとしても、ご褒美でやる気になったり、やっているうちに楽し

くなったりするパターンもあります。それが、将来の進学や職業選択に良い影響を与える可能性だってあります。

しかし、子どもは成長とともに自分の考えを持ちます。親の提案にノーとはっきりと言ってくると、親は諦めることができますが、そうでない場合は「試しにとりあえずやってみたら？」と、しつこく言ってしまうこともあるでしょう。試しにやってみた子どもが途中でノーという態度をとったときに親の思いに深く歯止めをかけられるかどうかポイントだと私は思います。

「エゴ」かどうかは、子どもの考えを置き去りにして自分の考えを押しつけていることに気づけるかどうかでしょうか。

## 《第2回》うとう塾

6/3 開催

### 早期発見・早期支援

子どもの発達障がい 今できることへ



講師：栗林 理人さん  
(弘前大学医学部 心理支援科学科 教授)

親が子どもの障がいを受け止め、子どもにとって必要な支援に繋げることで、社会生活のしやすさや、子どもの持つ力の可能性について知る機会として、弘前大学医学部 心理支援科学科教授の栗林理人さんに講話をしていただきました。

まず始めに、ご自身の3人のお子さんの子育て経験から、①第1子の写真やビデオが多く平等に育てていたつもりが、育てる側の思い入れがあったこと②子どもを叱った時の様子から、それぞれの子どもの生まれ持った感受性が異なること③飼い犬の接し方に違いがあることをお話されました。これは、ご自身が治療の際に、育てる親の側の要因「養育環境」と子ども側の要因「個」（発達特性）を意識することになったそうです。

発達段階で自閉傾向のある子どもは、乳児期では養育者と「いないないばー」などで視線を合わせない・感覚過敏から抱っこを嫌がる・離乳食の時期に口に入れたものを嫌がる（偏食）・ごっこ遊びがうまく展開できない・こだわりや特定の物への執着があるなどが顕著に認められます。

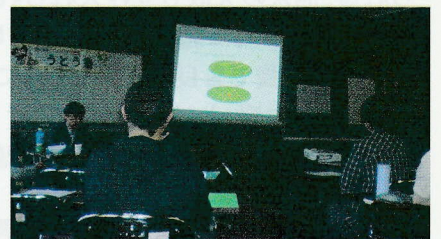
最近の問題は、知的な障害を伴わない自閉症傾向のあるグ

レーゾーンの子どもの数が増えてきていることです。日常生活での特徴は①1つのことにこだわり、物事を全体として捉えることが難しい②作業の同時進行が難しい③臨機応変が苦手④相手の気持ちをを読むことができない⑤瞬間時に記憶する特殊能力がある⑥感覚過敏、などがあげられ、これらの発達特性を背景として、独特の「生きづらさ」を感じているものと推測できます。

また、怒られたり傷つく体験や失敗経験を積み重ねて思春期になった場合、自己肯定感が低下し、うつなどの二次的な障害を併発したり、不登校やひきこもりなどの問題がでやすいです。

そのため、「生きづらさ」を軽減するためには、周囲の理解や環境調整が必要です。子どものうちに家庭や学校以外に安心できる居場所をつくることで、自尊心を育てる環境が確保できます。

最後に【グレーゾーンのゴールは「生きていく力」を身に付けることです。例えば、食事を作ること（食材を加工する）から、興味が湧き食材の買い出しでお金の計算なども身につきます。好きなことを突き詰め、裾野を広げ社会へ繋がる道筋をつけます。また、身の回りのことができるようになる生活指導が必要です。】と、アドバイスをいただきました。



### 『うとう塾』ってなあに？

発達に心配（発達性の偏りや遅れ）のある4歳～小学校中学校までの保護者や関心のある方を対象に、専門知識を持つ講師をお迎えして、年5回開く子育て講座です。

## 青森市子育てサポートセンター

【TEL・FAX】017-774-6537（開設時以外は、留守番電話をお願いします。）

【住所】〒030-0813 青森市松原1丁目6-3 サンピア（勤労青少年ホーム）2F

【開設日時】毎週火曜日 10:00～13:00

【E-mail】aomorishi-saposen@arion.ocn.ne.jp 【ブログ】<http://blog.goo.ne.jp/saposenrarara>



青森市子育てサポートセンターの運営は、私たち《青森市家庭教育サポーター連絡会》が、青森市教育委員会から家庭教育支援事業を受託して行っています。「青森市内で子育てをしている保護者のみなさんのお役に立ちたい！」という熱い思いで活動に取り組んでいます。